

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動テーマ

『バイオ炭活用と福祉NPOとの協働による
農・福・環連携事業』

活動団体の活動地域：北海道

活動団体名：(株)大雪を囲む会

中間支援主体名：(株)地域価値協創システム

中間支援主体としての獲得目標と達成状況

■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

- 福祉NPOとの協働事業実施
農産物・加工品共同販売システム試験運用
- 地域共生圏づくり構想具現化
有機農業を軸としたゼロカーボンファーム推進システム設計
- 支援ネットワーク構築
道内外の支援者・支援企業の組織化

■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

- 福祉NPOとの協働事業実施（ほぼ達成）
農産物・加工品共同販売システム試験運用
⇒活動団体に加え、オホーツク地域のSDGsに取り組む事業者や高校も参加した商品販売会を大阪で実施できたが、準備段階で不慣れな面もあり、次年度に向け検討課題も残った。
- 地域共生圏づくり構想具現化（達成）
有機農業を軸としたゼロカーボンファーム推進システム設計
⇒野菜バイオ炭を利用した融雪剤開発は順調に進み、機能性の確認も進んでいる。
- 支援ネットワーク構築（ほぼ達成）
道内外の支援者・支援企業の組織化
⇒道外では大阪府商工会連合会、(株)丸井、道内では農業者だけではなく、水産事業者、酪農家なども加わってきており、事業支援のすそ野が広がってきている。

中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する	○	カーボンファーマーミングのエビデンス等整理	○	
	意味づける				
	癒しとなる				
	見通しをつける	◎	カーボンファーマーミングのエビデンス等整理	◎	
プロセス支援	話を聞く				
	場を開く	◎	販売機会の創出	◎	
	喝を入れる				
	現在地を確認する				
資源連結	新しい人を入れる	◎	プラットフォームの体制強化	◎	
	事例を紹介する				
	引き出す				
	拡散する	◎	有機農業者への周知の場	○	有機農業取り組みのメリット説明が今一步
問題解決提示	文字や図に落とす				
	問いを立てる	○			
	会議を進行する				
	落としどころを探る				
その他	※必要に応じて追加				

今後の中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

【R7年度当初目標】

ローカルSDGsを実現した地域社会】

人口規模が小さく、豊かな自然環境に恵まれているオホーツク地域の農業生産者から率先してSDGsを実現するために、様々な地域資源を持ち寄り、地域内外のつながりも活かす仕組みをつくり、有機農業を軸として、多様な人たちがSDGs理念を共有しつつ、主体的に行動し、地域課題を解決していく地域社会づくりに貢献する。

■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェン ト機能での分類
活動主体の長所を活かし、足りない分を補完する方策を提案できる能力、意欲を持ち続けることができる。	北海道オホーツク管内の有機農業の拡大、推進の中心的役割を担えるよう、NPO団体等との協働推進や有機農業の魅力度や必要性を高める活動を支援する。	変革促進 プロセス支援 資源連結

■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

1. 有機農業への関心度向上（地元イベント・有機農産品SNSによる情報発信等）
2. 協力先の開拓・拡大（今年度実施した道外販売先の定着化）
3. 加工品開発（有機農産品の特徴を活かした加工品開発に環境保全型農業者生産加工物も加えていく）